



第3位

水野 恵

[演目: タラント]

たくさんを乗り越えて、ここまで辿り着けたことに感慨を覚えます。どんな苦勞も踊る上での力になると信じて、自分を励まし進んできました。今回は満足な練習ができずに焦っていましたが、本番では丁寧に踊ること、踊りたいという思いを強く持つことを忘れずに踊ることを心がけました。今後はこの賞を励みに活動の場を広げていきたいです。そして今まで通り、フラメンコ道を探求していきます。最後に、いつも応援してくれている両親、姉、友人に……「ありがとう、これからもよろしくお願いします」

大学在学中より鈴木真澄にフラメンコを師事。2000年～03年舞踊団員として多数の公演に出演、代教を務める。03年『FLAMENCO 曾根崎心中』に出演。04年渡西。05年CAFコンクール本選進出、愛知万博公演に出演。07年～08年セビージャ留学。これまで高橋英子、大塚友美、森田志保、アンドレス・ペーニャ、ピラール・オガジャ、トロンボなど、多数のアーティストに師事。



準優勝

萩原 淳子

[演目: ソレア]

「なんでそんなに長くなるの?」これは私がよく受ける質問だ。セビージャに来て7年。私の答えはいつも同じ「必要だから」。とにかく足りないのだ。技術点や芸術点では表せないものが。人は無理だと言う。でも私はそれに挑み続けている。そういった意味でコンクールの結果は私の道の一過程に過ぎないが、たくさんの方々のご支援を受けてさらに学び続けることができる。そのことに感謝してこれまで以上に努力したい。

1995年よりAMIに師事。2002年よりセビージャ在住。多数の一流舞踊家に師事する傍ら、スペイン国内で公演活動を開始。グラナダの「バラ・フラメンカ」ではペーニャ公演最優秀舞踊家賞を受賞。08年ビエナル併行ペーニャ公演にソロ出演。現在プライベート・フィエスタでスペイン人一流アーティストとともにレギュラー出演中。



優勝

高木 亮太

[演目: ソレア]

今自分ができる最高の踊りをしようと、バックの方々とともにこのコンクールに取り組んできました。それがこのように評価していただけたことは大きな喜びであり、驚きでもありました。これも師匠である稲田進さんをはじめ、あらゆる面でサポートしていただいた松村哲志さん、阿部真さん、そして応援していただいたみなさまのおかげだと思います。今後はこのいただいた機会を最大限活用して、確かな技術と表現力を身につけ、活動の幅を広げていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

富山県出身。2004年より大学のサークルでフラメンコに出会い、カホン奏者として活動を開始。06年より稲田進に踊りを師事する。07年と08年に短期渡西し、オルコ、トロンボなど、スペイン人アーティストに師事。現在は都内のタブラオを中心にライブに出演し、活動の幅を広げつつある。09年より長期渡西を予定。

奨励賞

里有 光子

[演目: ティエント]

信頼しているバックのみならず作品を創ることができたこと、そして奨励賞という幸運を手に入れられたことが何よりうれしいです。師匠の志保さん、応援してくれたみなさん、そして家族に心から感謝しています。スペインではすべてを吸収して、ひと回りもふた回りも大きくなって帰ってきます!

幼少よりモダンバレエを始め、大学在学中にフラメンコに出会う。森田志保、滝沢恵に師事。数回渡西しフアナ・アマジャ、ソラジャ・クラブホなどに師事。2005年日本フラメンコ協会新人公演バイル・ソロ部門で努力賞受賞、06年奨励賞受賞。



奨励賞

梶山 彩沙

[演目: ソレア]

今回初めて本選に出場しました。予選から本選までの1週間でやりたいことをまとめ、一つの作品を作るという怒涛のような作業の中で、多くのことを学びました。今年の10月から9ヵ月間スペインで勉強させていただきました。1秒でも無駄にしないよう、すべてを吸収して今後に生かしたいと思っております。

幼少より学んだシンクロナイズスイミングを引退後、16歳でフラメンコに出会い上籾洋子に師事。その後、ペーニャ・ガルシアのライブに感銘を受け、スタジオに入所。2008年日本フラメンコ協会新人公演バイル・ソロ部門で奨励賞受賞。



2009年第5回CAFフラメンコ・コンクール

若手舞踊家たちの向上のために

2月に開催された『第5回CAFフラメンコ・コンクール』。若手舞踊家に舞台経験と研修の機会を提供することを目的とした、フラメンコの舞踊コンクールである。未来を担う66人の舞踊家たちが参加した、コンクールの概要と入賞者を紹介する。

文/谷口哲哉 texto por Tetsuya Taniguchi 写真提供/財団法人スペイン舞踊振興マルワ財団(撮影:大森有起)

2月22日、東京・新宿文化センター大ホールで『第5回CAFフラメンコ・コンクール』が開催された。主催は財団法人スペイン舞踊振興マルワ財団。2001年に「スペイン舞踊、音楽の普及向上を図り、日本の文化の発展に寄与すること」を目的として設立され、これまで創作活動への助成、顕彰、海外アーティストの招聘などを行っている。

2002年から始まったコンクールは、今年で5回目(03年から隔年開催)になる。舞台は「若手芸術家の育成を目指す、将来性ある舞踊家を発掘し、スペインでの研修機会を提供するための対象者選考」の場であり、優勝、準優勝者にはスペイン往復航空券と賞金(研修費含む)を授与。第3位は賞金、30歳以下の出演者から選出の奨励賞2名は、セビージャの舞踊学校で9ヵ月間の研修が受けられる。予選通過者も、翌年同財団が開催する『ビエンナーレ・フラメンコ・フェスティバル』を通して、舞台出演やクルシージョが受けられる仕組みになっている。

国内唯一のフラメンコ・コンクールであり、以後のレベルアップを促進するプログラムが多数組まれていることから、毎回多くの若手舞踊家が参加。年々参加者のレベルも上がり、舞台出演、研修を経た出演者は、大きな飛躍を遂げている。

コンクールという舞台
今年の名古屋、東京で行われた予選に66人が参加し、16人が本選に進出した。予選は持ち時間5分で、アレグリアス系、ソレア系、あるいはシギリージャ系から1曲を選択。本選の課題曲は自由(予選

で踊った以外の曲種)で持ち時間は7分。審査は予選、本選を通して「技術」と「芸術」を偏重方式で評価する。今回審査員はフラメンコ舞踊家AMI(鎌田厚子)、佐藤佑子、田中美穂、舞踊評論家の伊地知優子、うらわまことが務め、本選にはフラメンコ舞踊家カルメン・レデスマ、アンダルシア州政府観光局のマヌエル・マシアス氏が加わった。

審査の結果、優勝高木亮太、準優勝萩原淳子、第3位水野恵、奨励賞に梶山彩沙、里有光子が選出された。「技術」と「芸術」が審査される以上、出演者にとって難しい舞台であることは容易に想像できる。舞踊の基礎はもちろん、自分が求めるフラメンコを打ち出し、さらには曲や舞台の起承転結といった「見える」部分も考慮する必要があるからだ。

優勝した高木は、静のソレアから怒濤のブレリアへと流れ込み、気持ちこもった踊りを披露した。審査員による評価に加え、演技後に会場から最も大きな拍手が送られたことが、その結果を証明していたといえるだろう。

コンクール後の授賞式では、審査員のカルメン・レデスマが出演者に対して健闘を讃えるとともにエールを贈った。

「みなさん技術はすばらしく、最高だった。でも、どの人も上半身に課題が残っています。アルテはもっと複雑で、フラメンコには美しさが重要です。エル・グイトやマノレテなど、歴史に学びもつと表現力を磨いてほしいと思います」

コンクールの詳しい結果は、同財団のホームページ(<http://www.mwlor.jp>)で開示している。